

## 平成24年度工学系共通経費による顕彰と研究助成 成果報告書

所 属	国際開発工学専攻
研究者(ふりがな)	江頭 竜一 (えがしら りゅういち)
タイトル	国際開発をキーワードとしたAOTULE加盟大学との学生交流
助成名	AOTULE加盟大学との教育研究連携助成
採択金額	1,000,000円

## 背景と目的

国際開発工学科の授業科目の一つである「国際開発コロキウム」においては、開発途上地域に100万キロワット級の火力発電所を建設することを想定して、生産プロセス、土木建造物の設計、配置計画、財務・経済分析、などを総括したプロジェクトの進め方を学習させている。具体的には、途上地域での電力事情、発電所建設ODA、発電プラント、財務・経済分析理論の基礎、などの概要を講義したのち、学生をそれぞれ7~8名の3~4グループに分け、このグループごとに発電プロセスの計算、立地場所の選択、所内の配置計画、財務・経済分析を行わせ、その結果をグループごとに発表、討論するものである。開発途上国における発電所の建設を想定していることから、このような検討結果の発表を国際的な場で他国の学生との討論も含む形で行うことができれば、学生の理解もさらに深まるものと期待できる。

一方AOTULEでは、毎年メンバー大学が持ち回りでホストを担当し学生ワークショップを開催している。ここでは、様々な工学分野からの大学院生の研究発表が主であるが、本学からは、これまで、機械系、電気系、などの学科から学部生の授業科目等での成果に関する発表も行われている。大学院生の研究発表はもちろん、本学からのこの学部生の発表についても、ワークショップの活性化に効果を上げていると、ホスト大学や他のメンバー大学から好評を得ている。

本助成の利用においては、上記「国際開発コロキウム」におけるH24年度の3グループの発表のうち評価の高かった1グループをAOTULE学生ワークショップに派遣し、国際的な場での発表、他国の学生との討論などを経験させること、この参加への意欲を発奮材料として本授業科目全体を活性化させること、ならびにAOTULE活動を通して学生交流を活発化させることを目的とした。

## 実施概要

上記「国際開発コロキウム」において、評価の高かったグループの学生7名(日本人5名、留学生2名(中国))をAOTULE学生ワークショップに派遣した。AOTULE学生ワークショップは以下のように開催された:

## AOTULE学生ワークショップ

日程: 平成24年11月24日, 25日

開催地: マラヤ大学(マレイシア・クアラルンプール市)

参加学生: 国際開発工学科3年生7名(日本人5名、外国人留学生2名(中国))

引率教員: 江頭 竜一

## 本年度の成果

本年度の国際開発コロキウムの3グループはいずれも甲乙つけがたい成績であったが、結果として下記の7名の学生のグループを派遣することとなった。本プログラムが大きな発奮材料となり、当該授業の活性化に大きく貢献したものと思われる。

AOTULE学生ワークショップにおいては、参加、発表に先立ち、発表の要旨を提出した。要旨は英文で書かれたA4用紙1ページのものである。また、発表も英語によるものであり、持ち時間は計10分程度と短かったため参加7名のうちの1名が発表を担当し質疑には全員で対応した。本学の他の学生ならびに他大学の学生の発表会場にも積極的に足を運び、熱心に発表に耳を傾けていた。授業の理解が深まるだけでなく、今後、学士論文研究、さらには大学院への進学を控える学部3年生にとって貴重な学術活動の経験になったものと思われる。本ワークショップにおいては、発表会だけでなく、清華大学の学生による学内や市内のツアー、会食、などもあり、これらへの参加による他国、他大学、学生との交流も深めることができた。以上より、派遣したグループの7名の学生が学術活動、国際交流の経験を得ただけでなく、AOTULE活動の活発化にもつながったものと思われる。



学生会議発表会場



マラヤ大学キャンパス・ツアー

## 使用内訳書

費  目	内  訳	金  額
備品 1		
備品 2		
消耗品		
旅  費	国外出張 (11/23~27、渡航先: マレイシア・クアラルンプール、 渡航者: 易, 市村, 神原, 島原, 張, 日比生, 吉田)	1,050,000
その他		
合  計	差額50,000円については法人運営費(予算詳細11210 00000 10453 54230)で補填。	1,050,000

## 記入上の注意:

備品は、品名ごとに記入。

差額が生じた場合は、消耗品で調整。

消耗品を購入しなかった場合は、経費の差額と補填した予算科目名を合計額の内訳欄に記入。